平成23年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会 (財団法人 逓信協会)

目 次

	1 はじめに	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
	2 逓信総合博物館の運営	•	•		•						1
	(1)逓信総合博物館の展示	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
	(2) 照会に対する回答・資料貸出等	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
	(3)電信電話教室	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
	3 前島密賞の贈呈	•									2
	4 逓信協会雑誌の発行	•	•	•	•						2
	5 文化事業の運営									•	3
	(1)文化講演会・実践手紙講座等	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
	(2)てづくりレターコンクールの実施	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
	6 ポストクリーン活動の実施	•						•			5
	7 施設管理業務の受託			•		•					6
	(1)逓信総合博物館施設関係	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
	(2)日本電信電話株式会社施設関係	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
	8 会員に対する諸施策							•			6
	(1)記念品の贈呈	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
	(2) 東日本大震災による被災会員等への支援	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
	(3) 叙勲祝賀会の開催	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
	(4)新年賀詞交歓会の開催	•	•	•	•	•	-	•	•	•	6
	9 育英事業										7
	(1)育英施設(杉並学生寮)の運営	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
	(2) 中西重思・遺児育英基金の管理・運営	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
1	O 団体傷害保険等の取扱い										7

1 1 会員増強活動	7
12 役員会議等開催状況	9
(1)理事会 (2)最初の評議員選定委員会	9
(3)評議員会	1 0
13 協会情報(ホームページ)の充実	10

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足以来、逓信事業に関係ある者の教養を高め、相互の親睦、福祉の増進を図り、併せて逓信事業の総合的発展に寄与し、もって文化の向上に貢献するという本会の目的に沿った各種の事業活動を通じて、「結ぶ」、「つなぐ」、「伝える」をキーワードに逓信文化の継承とその発展に努めてきた。

公益法人制度改革に関して、新たな公益法人である公益財団法人の認定を受けるべく、平成23年10月27日に内閣総理大臣(内閣府公益認定等委員会)に移行認定申請を行い、平成24年3月28日に認定を受け、平成24年4月1日(設立登記日)から公益財団法人通信文化協会として新たなスタートを切ることとなった。

逓信総合博物館の運営、前島密賞の贈呈、文化講演会の開催、逓信関係者の子弟の育英、文化活動等各種施策を実施しており、逓信総合博物館の情報通信館は東日本電信電話株式会社から受託して当協会が運営している。

一方、郵政資料館は日本郵政株式会社の直営となっているが、平成24年4月からは郵政資料館の運営についても本協会が行うことになり、これによって逓信総合博物館の運営全体を本協会が行うことになった。

2 逓信総合博物館の運営

(1) 逓信総合博物館の展示

博物館運営の受託業務については、電気通信に関する常設展示のほかにも郵政資料館と協力 し、意欲的に取り組み年間5回の特別展を開催した。

逓信総合博物館の平成23年度の入館者は41,676名、開館日数は200日で、一日平均208名であった。

なお、3月11日に発生した東日本大震災によって、博物館建物外壁等の点検・修復作業が必要とされ、翌12日から8月2日までの休館を余儀なくされたことも開館日数及び入館者数に影響した。

No	主催者	特別展名	期間	開催	入館者
			.,,	日数	数(人)
1	二機関(担当 NTT東日本)	ファミリーフェスティバル	8月10日(水)~ 8月21日(日)	10	2, 279
2	郵政資料館	昭和レトロと郵便展〜切手少年がいた時代〜	9月17日(土) ~ 12月18日(日)	80	17, 313
3	郵政資料館	宮廷衣裳の美〜切手で旅する 「雅」の世界〜	1月3日(火) ~ 2月26日(日)	48	12, 105
4	郵政資料館	東海道展 ~知られざる郵便創 業の道~	3月3日(土) ~ 3月30日(金)	24	6, 990

逓信総合博物館特別展開催状況

5	二機関(担当 NTT東日本)	春休みファミリーフェスティバル	3月20日(火·祝) ~ 3月30日(金)	10	3, 994
---	-------------------	-----------------	--------------------------	----	--------

(2) 照会に対する回答・資料貸出等

一般利用者からの電気通信に関する各種問合せのほかに、新聞社・テレビ局・出版社等から の取材照会も多く、時代考証や正確な記載内容といった点で寄与している。

≪問合せ回答件数≫ ア. 電信関係 16件 イ. 電話関係 47件 ウ. その他 22件

合 計 85件

また、館外における対外的活動としては、NTT各機関のイベント、出版社の教科書・雑誌の制作等に際し、当館保管の電信電話機器・資料等の貸出しを行った(48件)。また、展示機器の説明等に関して、適宜、支援を行った。

(3) 電信電話教室

博物館ホール・教室・会議室において電信電話教室を開催し、入館者に対する活動の充実に 努めたほか、NTT社員や関連会社の新入社員の見学者を対象に、講義や案内・説明を行った。

- · 開催回数 24回
- · 参加人数 497人

3 前島密賞の贈呈

前島密賞は、逓信事業の創始者である前島密の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるために昭和30年度に創設されて以来、情報通信及び放送に関して顕著な功績のあった方々890名(団体を含む。)に贈呈して功績を称え顕彰し、情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

平成23年度の前島密賞(第57回)については、公益財団法人移行に向けて規程等を改正し、 これまでの総務省、旧官業系推薦機関に、日本民間放送連盟、電気通信事業者協会等の民間事業 者団体等を加え、贈賞対象者の幅を広げたことにより、贈賞人数も増加した。

平成23年7月20日に新しい募集をHP上等で公表し、9月30日を締切日とし、選考委員会(第1回(11.25)、第2回(12.13))、理事会(1.26)の議を経て28名(うち共同研究13名)・1団体の受賞者を決定し、多数の参加者の下に贈呈式を開催(3.16)した。

4 逓信協会雑誌の発行

平成23年度は、前年度の方針を踏襲し、活字の拡大や2色刷りなど読みやすい誌面作りに努めた。5月号については、「通巻1200号記念号」として、特集記事や読者からの応募記事等により誌面を充実させ、いつもの倍の頁数での発行とした。また、厳しい協会財政の下、逓信協会雑誌充実のための新たな財源の確保を目指して、広告収入の拡大に取り組んだ。1200号記念号では逓信関係の会社や団体等から協賛広告を、平常号でも掲載広告、同梱チラシの封入を積極的に募集し獲得した。

記事については、次表のとおり、岡野裕基金記念講演会シリーズの講演録を中心に特集として編集した。新年号では情報通信の発展経過と社会の変化について、月尾東大名誉教授、坂村東大教授による対談を実施、掲載した。

「逓信協会雑誌」 12回(毎月発行) 70万部

一地旧伽五个	"" "" "" "" "" "" "" "" "" "" "" "" "" "	, 0)] []
発行月	特集記事	執筆者又は話し手
23年 4月	第56回前島賞受賞者とその功績	逓信協会 文化部
5月	前島賞受賞記念講演	画家・グラフィックデザイナー 原 田 泰 治
6月	岡野裕基金記念講演会シリーズ たよりのこころ(前編)	中原中也記念館名誉館長 福田 百合子
7月	岡野裕基金記念講演会シリーズ たよりのこころ(後編)	中原中也記念館名誉館長 福田 百合子
8月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 地球共生時代の情報通信の役割	東京大学名誉教授 月 尾 嘉 男
9月	岡野裕基金記念講演会シリーズ ことばの力(前編)	ことばの杜代表 山 根 基 世
10月	岡野裕基金記念講演会シリーズ ことばの力(後編)	ことばの杜代表 山 根 基 世
11月	岡野裕基金記念講演会シリーズ ネット社会と子どもたち 「子どもの情報モラルを考える」	東京都台東区立東泉小学校校長 佐久間 茂和
12月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 手紙の値段(前編)	作家 出久根 達郎
2 4 年 1 月	新春対談 明日の世界を拓く情報通信 — 情報通信の発展の流れと社会の変化 —	東京大学名誉教授 月尾嘉男東京大学教授 坂村 健
2月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 手紙の値段(中編)	作家 出久根 達郎
3月	岡野裕基金記念講演会シリーズ 手紙の値段(後編)	作家 出久根 達郎

5 文化事業の運営

本協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、次のとおり文化事業を実施した。

(1) 文化講演会・実践手紙講座等

地方本部	開催日	開催場所	施策名等	講師	参加者
北海道	23. 4.16	江別市	絵手紙教室	札幌絵手紙の会 笠井 則子他	人 550
1.一件坦	23.10. 1	(夕張郡) 由仁町	文化講演会「一次産業を 再生する未来戦略」	東京大学名誉教授 月尾 嘉男	450
東北	23. 10. 30	仙台市	文化講演会「しなやかに 現在を生きる」	作家神津カンナ	240

関	東	23. 7. 2	さいたま市	文化講演会「ITがもたら す新しい世界」	東京大学名誉教授 月尾 嘉男	180
東	京	23.4~ 7	武蔵野・杉 並・中野	手紙スクール	絵手紙連絡会代表 和知 宏美他	延べ 75
未	水	23. 10. 22	足立区	文化講演会「ラジオの魅 力、言葉の力」	元 TBS アナウンサー 遠藤 泰子	180
信	越	23. 10. 1	長野市	 手紙教室(2所)	PFC アドバイサー	延べ
	~_	23. 10. 16	227 11	1 1301X = (= 7/1 /	小林 節子他	60
ᅰ	7±	23. 10. 6	A□±	子如数字 (O目)	絵手紙協会公認講師	延べ
70	北 陸 23.10.13 金沢市		一 並	手紙教室(2回) 	岡本 慶三他	60
東	海	23.6~ 8	愛知県他	絵手紙教室(4所)	日本絵手紙協会公認講師 大道 邦夫他	延べ 286
٠,-	414	23. 11. 17	大阪市	干支ちぎり絵講習会	日本ちぎり絵協会	延べ
近	畿	23. 11. 26	亀岡市	(2所)	講師 山本 愛子他	35
中	玉	23. 9.23	岡山市	文化講演会「手紙の値段」	作家 出久根 達郎	260
九	州	23. 11. 12	福岡市	文化講演会「もう一度考えたい ことばの力」	ことばの杜代表 山根 基世	470
沖	縄	24. 3. 3	那覇市	文化講演会「離れて知る」	(学)興南学園理事長 我喜屋 優	130

(2) てづくりレターコンクールの実施

オリジナルの手紙を創造する楽しさを通じて、文通の促進や手紙文化の振興を図ることを目的とした「てづくりレターコンクール」を昨年に引き続き実施した。今回は「てづくりレター部門」「絵はがき部門」の2部門で開催し、個人での応募に加え新たに学校等団体単位での応募も受付けた。

コンクールには、全国から1,737点の作品が寄せられ、第1次審査会、第2次審査会を経て105作品が入賞・入選した。ホームページ上で受賞者を発表したほか、入賞作品をまとめた作品集を発行し、関係機関や入賞者に配付した。

このコンクールの入賞作品展(手紙であたたかコミュニケーション)を、逓信総合博物館において2月に開催した。2月18日には、関連イベントとして、人形劇団プークによる人形劇「ゆうびん屋さんのお話」(併演: だるまちゃんとてんぐちゃん)を同館地下2階ホールで開催した。

ア 募集期間 平成23年9月1日(木)~23年11月11日(金)

イ 主 催 財団法人 逓信協会

ウ 協 賛 等 協賛:郵便事業株式会社、公益財団法人日本郵趣協会

協力:日本郵政株式会社、郵便局株式会社

後援:公益社団法人日本青年会議所

こどもの部・学生の部の後援:全国都道府県教育委員会連合会

エ 審 査 員 審査員長/鴫剛(画家)

審 査 員/畦地教子(株式会社日本ホールマーク 代表取締役社長)、中谷直子 (女子美術大学付属高等学校・中学校 元副校長)、松尾謙一(財団法人 日本郵趣協会 事務局長)、松田素子(絵本編集者・作家)、向井美子(デ ザイナー)、山下健一郎(郵便事業株式会社 郵便事業部 切手・葉書室 担 当部長)、天野定功(逓信協会理事長)

才 入賞者数

てづくりレター部門及び絵はがき部門

部門	区分	逓信協会 賞	日本郵便 賞	日本郵趣協会賞	審査員 奨励賞	佳作	入選	計(人)
ナベノリ	こどもの部	1	1	1	1	2	13	19
てづくり レター	学生の部	1	1	1	1	3	8	15
Dy -	おとなの部	1	1	1	1	2	12	18
	こどもの部	1	1	1	1	2	14	20
絵はがき	学生の部	1	1	1	1	2	10	16
	おとなの部	1	1	1	1	2	11	17
合	計	6	6	6	6	13	68	105

カ 入賞作品展

○ 名 称 第3回てづくりレターコンクール入賞作品展

○ 会 期 平成24年2月11日(土)~2月26日(日)<月曜日休館>

〇 会 場 逓信総合博物館3階 企画展示場

〇 入場者数 4,419人

〇 関連イベント

開催日	名 称	場所	出演	参加者
24. 2. 18	一世界人形劇場— ゆうびん屋さんのお話 (原作:カレル・チャペック)	逓信総合博物館 地下 2 階ホール	人形劇団 プーク	人 167

6 ポストクリーン活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃を次のとおり実施した。

地方本部	開催日	開催 地 域	参加者(人)
	23. 7.27	七飯町大中山	17
北海道	23. 8.11	千歳市・恵庭市・北広島市	16
	23. 8.16	札幌南区	15
	23. 4.23	柏市	30
関東	23. 10. 22	柏市	24
	23. 10. 23	東松山市	27
	23. 6. 5	郵便事業(株)武蔵野支店	55
東京	23. 7. 9	郵便事業(株)中野支店・目黒支店	延べ 131
米	23. 10. 15	郵便事業(株)杉並支店	48
	24. 3.10	郵便事業(株)杉並南支店	58

近畿	23. 11. 11	J R赤穂駅前	15
九州	23. 10. 29	郵便事業(株)鹿児島支店	60

7 施設管理業務の受託

(1) 逓信総合博物館施設関係

逓信総合博物館の施設関係については、日本郵政株式会社、東日本電信電話株式会社及び日本放送協会の三機関から、電気・空調等設備維持管理業務を受託した。

(2) 日本電信電話株式会社施設関係

逓信総合博物館と同一ビル内にある日本電信電話株式会社の施設関係事務に関しても、電気・空調・衛生・消防設備の保守等の委託を受けた。

8 会員に対する諸施策

通常会員及び賛助会員に対して、次の施策を実施した。

(1)記念品の贈呈

- ア 在会5年以上で郵政グループを退職し退会した通常会員1,531人に長期在会記念品を 贈呈した。
- イ 米寿を迎えた賛助会員469人に米寿記念品を贈呈した。
- ウ 協会手帳を配付した(希望者のみ)。

(2) 東日本大震災による被災会員等への支援

ア 全国の会員から義援金を募り、被災した会員等へ弔慰金、見舞金を送金した。

・ 弔慰金(死亡・行方不明の会員の遺族)

12人 600,000円(一人当たり50,000円)

見舞金(家屋全損、福島原発事故により避難した会員)

209人 4,807,000円(一人当たり23,000円)

(義援金総額5, 603, 037円から弔慰金、見舞金、送金手数料(61, 590円) を控除した残金134, 447円は、NHKを経由して中央共同募金会へ寄附した。)

イ 会費の免除

家屋半壊(会員からの申出による)以上の被災会員及び福島原発事故による避難会員217 人(通常会員144人、賛助会員73人)に対して、1年間の会費を免除した。

ウ 被災会員への宿泊受入れボランティア

賛助会員4人から受入れの申し出があったが、いずれも被災会員からの転居希望はなかった。

(3) 叙勲祝賀会の開催

叙勲を受章した関東・東京地方本部所属の賛助会員を対象に、本部及び関東・東京地方本部の共催で、春と秋(米寿祝賀会を併合開催)に祝賀会を開催した。

また、北海道及び中国地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

(4) 新年賀詞交歓会の開催

東京都内と関東在住の会員を対象に、本部及び関東・東京地方本部の共催で1月12日、

逓信総合博物館4階会議室において開催した。

また、北海道、東北及び東海地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

9 育英事業

(1) 育英施設(杉並学生寮)の運営

昭和42年以降、会員の子弟のために学生寮を提供して育英支援するとともに、寮生に対しては規律ある集団生活を指導し、将来を目指して明るく勉学に精励できる環境の保持に努めてきた。

なお、当施設は、老朽化の進行と公益財団法人移行に向けて現状の運営のままでは公益目的 事業となり得ないとの主務官庁の指摘もあり、平成23年度末をもって廃止した。

平成23年度の状況は次のとおりである。

〇 新入寮生(平成23年4月)

6名

〇 23年度当初の在寮生

25名

○ 23年度末をもって廃寮

全員退寮

(2) 中西重思・遺児育英基金の管理・運営

長年、郵政審議会委員などを務め郵政事業に貢献された中西重思氏の遺言により、在職中に 死亡した郵政関係社員の遺児(満18歳未満の子)育英のために、平成12年10月に中西育英 基金(4億5百万円)が設立された。 当会がその管理、運営を委ねられ、以後、遺児に対して 1人40万円を給付し養育の支えとなっている。

平成23年度の給付状況は次のとおりであり、この中には昨年3月の東日本大震災により亡くなった社員14名(行方不明者を含む)の遺児23名への給付金920万円の支給が含まれている。

〇 件数(対象となった遺児数)

62件 100名(前年度 37件 62名)

〇 給付金

4. 000万円(前年度2. 480万円)

平成23年度末までの給付額の累計は2億7,320万円(523件・対象遺児879人) となった。

10 団体傷害保険等の取扱い

逓信協会会員及び郵政グループ職員を対象とする福祉厚生のための傷害保険等契約状況は、 次のとおりである。

•	1 104. 0- 1 00.	
区 別	口・件 数	保険料
団 体 保 険	68 千口	5 1 9 百万円
団体扱保険	5 千件	270 百万円

平成23年度における契約状況

11 会員増強活動

平成23年度の会員増強については、郵政事業の民営・分社化に伴う通常会員の大幅な減少への対策並びに通常会員の定年退職者等を賛助会員として継続加入を図ることを重点に取り組むこととし、併せて、定年年齢等の経過措置の終了(平成25年3月末日)に伴う退会者の予測数を平準化して補充することも考慮し、新規加入目標は通常会員2,800人(うち純増

目標1,000人)、賛助会員1,700人(純増目標800人)として設定した。

23年度の新規加入目標の推進状況は、通常会員が2,830人(対目標101.1%)、 賛助会員が950人(対目標55.9%)であり、通常会員は418人の純増、賛助会員は 301人の純減、合計117人の増加となり、対前年度末の会員数を上回る結果となった。

通常会員は、ここ数年、2月末までは対前年度末比較で増加を確保するものの、年度末における定年退職者等により年度合計では減少となる傾向にあったが、23年度は新規加入者が対前年度500人を上回る入会者を確保したほか、3月末の退職による退会者が前年を下回ったこともあり、6年振りに前年度末に比べ418人増加し、33,496人となった。

一方、賛助会員は、これまで純増を確保してきたが22年度に減少に転じ、23年度も対前年度比301人減少し、24,684人となった。これは、22年度から実施している免除会員、在会15年以上となる終身会員に対して寄附のお願いや弔慰金等の廃止に起因するものと考えられる。23年度の退会者は前年度を約200人下回ったものの、新規加入目標の推進率が55.9%に留まり301人の減少となった。

23年度末の通常会員・賛助会員の合計は58,180人、僅かであるが対前年度末比117人の増加となった。

各地方本部別の増強目標に対する推進状況は、通常会員は、北海道、信越及び近畿の3地方本部が新規目標・純増目標ともに達成し、東北、東海、四国及び九州の4地方本部が新規目標を達成(純増目標は未達成)した。また、関東、東京、北陸、中国及び沖縄の5地方本部は新規目標・純増目標ともに未達成であった。

賛助会員は、北海道、東北、信越の3地方本部で新規目標を達成し、他の地方本部は未達成であった。

なお、純増目標は全地方本部が未達成であるが、対前年度末比較で増加した地方本部は、北海道、東北及び東京の3地方本部であった。

通常会員と賛助会員の合計で前年度末と比較すると、増加したのは北海道、信越、東海、 近畿、九州の5地方本部となった。

会員の現況は、次のとおりである。

単位:人、口

年度別 会員別	平成23年度末	平成22年度末	増・(▲)減
通常会員	33, 496	33,078	4 1 8
賛 助 会 員	24, 684	24, 985	▲301
個 人 会 員(合計)	58, 180	58,063	1 1 7
団体会員(口数)	6 1 5	602	1 3

(地方本部内訳) 単位:人

地方本部	平成23年度末	平成22年度末	増・(▲)減
北 海 道	4, 988	4, 888	100
東北	6, 788	6, 806	▲ 18
関東	6, 857	6, 878	▲ 21
東京	5, 008	5, 264	▲ 256
信越	4, 434	4, 336	9 8
北陸	2, 137	2, 198	▲ 61
東海	6, 365	6, 293	7 2
近 畿	7, 240	6, 982	258
中 国	4, 738	4, 800	▲ 62
四国	2, 923	2, 973	▲ 50
九州	6, 312	6, 245	6 7
沖 縄	390	4 0 0	▲ 10
合 計	58, 180	58, 063	1 1 7

(参考)

「免除会員及び終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から逓信協会雑誌の配付を希望する会員には雑誌郵送料等相当の寄附(支援)をお願いしており、23年度は2,565人の会員から総額3,663,640円(振替手数料控除後)の寄附収入があった。

12 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

(1) 理事会

○ 第207回 理事会(平成23年6月23日)

<議案> 1 平成22年度事業報告について

- 2 平成22年度決算報告について
- 3 理事の退任等について
- 4 新公益法人移行後の最初の評議員選任方法及び最初の評議員選定委員 会委員の選任について
- 第208回 理事会(平成23年9月2日)

<議案> 1 寄附による義援金の配分について

- 2 来る9月7日に開催予定の最初の評議員選定委員会に提出する最初の 評議員候補者について
- 〇 第209回 理事会(平成23年10月20日)

<議案> 1 公益財団法人への移行認定申請について

2 定款の変更の案並びに最初の評議員、理事、監事及び代表理事の氏名

を「定款の変更の案」の附則への記載について

- 3 最初の理事及び監事の選任について
- 4 最初の代表理事の選定について
- 5 内部規程の改定について
- 6 評議員の選任について
- 第210回 理事会(平成24年1月26日)<議案> 第57回前島密賞の授賞者決定について
- 〇 第211回 理事会(平成24年3月23日)
 - <議案> 1 平成24年度事業計画について
 - 2 平成24年度収支予算について
 - 3 内部規程の制定について
- (2) 最初の評議員選定委員会(平成23年9月7日)
 - <議案> 1 議長の選出について
 - 2 最初の評議員の選出について
- (3)評議員会
 - 第132回 評議員会(平成23年6月23日)
 - <議案> 1 平成22年度事業報告について
 - 2 平成22年度決算報告について
 - 3 理事の退任等について
 - 〇 第133回 評議員会(平成23年10月20日)
 - <議案> 1 公益財団法人への移行認定申請について
 - 2 定款の変更の案並びに最初の評議員、理事、監事及び代表理事の氏名 を「定款の変更の案」の附則への記載について
 - 3 最初の理事及び監事の選任について
 - 4 最初の代表理事の選定について
 - 5 内部規程の改定について
 - 第134回 評議員会(平成24年3月23日)
 - <議案> 1 平成24年度事業計画について
 - 2 平成24年度収支予算について
 - 3 内部規程の制定について

13 協会情報(ホームページ)の充実

平成14年度に開設したホームページについては、各種情報の迅速な提供と、各種催事等多目的な活用の場を提供することとし、情報の公開、地方本部も含めた協会主催イベントのタイムリーな掲載、新規会員加入申し込み案内など、会員や逓信事業関係者をはじめ広く逓信に関心を有する皆さまの情報の拠点としている。

また、本部内にHP委員会を設け、掲載事項について意見交換するなど、閲覧者にとって利用しやすいホームページの実現に努めた。

〇 主なコンテンツ

- ・「財団法人逓信協会とは」→公益法人としての情報公開
- 「お知らせ」→全国の協会主催イベントをタイムリーにお知らせ
- 「協会だより」→お知らせで案内した各種イベントの開催状況等を案内
- 「会員用各種変更届」→ホームページから会員の各種変更届の様式をダウンロード
- 「逓信協会雑誌目次」→目次を掲載して、掲載事項を紹介
- 「前島密賞」→前島密賞の「募集要項」や「受賞者の功績」を紹介
- 「てづくりレターコンクール」→てづくりレターコンクールの概要や受賞作品等を紹介